

(様式1)

大 学 名	慶應義塾大学	学問分野	学際・複合・新領域
専 攻 等 名	政策・メディア研究科 政策・メディア専攻		
拠点のプログラム名称	次世代メディア・知的社会基盤		
拠点リーダー氏名	徳田英幸	所属部局・職	政策・メディア研究科委員長 政策・メディア研究科政策・メディア専攻・教授
プログラムの概要	次世代情報インフラやデジタルメディアの応用とその先端的な社会基盤実証実験に関して、理念、方法論、基礎理論、要素技術、応用などの研究開発を行い、21世紀型知的社会基盤アーキテクチャの確立をめざす国際的な研究教育拠点を形成する。		
拠点形成の目的・必要性	<p>本研究拠点は、これまでの慶應義塾湘南藤沢キャンパス(KEIO-SFC)における研究リソースを活用し、次世代インフラ基盤、次世代応用基盤、および先端的な基盤実証実験の3層における研究を融合させ、次世代情報インフラやデジタルメディアの新しい応用を研究開発するとともに、実証実験を通じて、人間、社会、環境、文化、教育、医療などを支える21世紀型知的社会基盤アーキテクチャの確立をめざしている。</p> <p>情報のデジタル化は、コンテンツだけでなく、それを利用する行為パターンや社会制度自体に大きな影響を与えてきており、これらを総合的に探究する必要性が増大している。次世代情報インフラやデジタルメディアの応用とその社会基盤実証実験に関して、理念、方法論、基礎理論、要素技術、応用などの研究を進める意義は大きい。本拠点は、ITやデジタルメディア学の研究者と政策科学の研究者が1つの組織内で協調作業を通じて研究開発を推進し、新しい学問的な方法論までを創出している点がユニークである。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>本研究拠点では、次世代インフラ基盤、次世代応用基盤および先端的な実証実験の3つの層に関して研究グループを組織し、研究テーマを設定し、研究を推進していく。また、各グループ間でのコラボレーションや国内外の研究拠点との連携を拡大していくために、定期的なワークショップや国際シンポジウムを開催する。更に、実証実験に関してもこれまでの実績をふまえ、キャンパス内実験だけでなく、藤沢市などの周辺地域や全国レベルでの展開をめざして実験を行い、さまざまな知的社会基盤の評価を行う予定である。個別研究テーマとともに、研究グループ内あるいはグループ相互間において、次世代メディア、あるいは知的社会基盤という観点から人間、社会、環境、文化、教育、医療などの側面に対して与えるインパクトを追究し、それらを体系的にまとめ、評価する。まず、数10Gbpsのキャンパスバックボーンを持つ次世代情報インフラの設計・構築を行い、各グループ間での共通基盤を確立する。また、個別研究テーマを推進していくための研究テストベッドのプロトタイプを構築する。3年目には、中間成果をもとに国内外の研究者を集め、次世代メディアと知的社会基盤に関する国際シンポジウムを行うとともに、新しい次世代情報インフラに対する再検討を行う。後半3年間は上記の総合的な研究テーマに加え、各グループ間での協調を深化し、さまざまなインパクトを分析し、基盤実証実験を通じて、知的社会基盤アーキテクチャを体系的にまとめ、それらを評価する。</p>		
教育実施計画	<p>本拠点では、他大学院にはない数々のユニークな取り組みを行っており、これらをより拡充し、人材育成に精力的に取り組む。1)カリキュラム:「研究プロジェクト科目」を通じて、学生たちは教員が実施している研究プロジェクトに実際に参加し、研究者としてのトレーニングを受ける。また、英語での授業科目を拡充する。また、インターンシップ科目やフィールドワーク科目の積極的活用により、学生の海外交流や実地研究を促進する。2) 授業・自習環境: 海外サテライトスタジオ、電子教材、SOI (School on Internet)、WLS(Web-based Learning System)を活用する。3) 基金による研究支援環境: 本拠点で計画している個別研究テーマなどをもとに、重点領域テーマを設定し、学生たちによる分野横断的な研究活動を促進する。4) 研究成果発表会: 毎年開催している研究成果発表の場であるOpen Research Forumにおいて、本拠点で行う研究テーマと関連したテーマをメインテーマとして、幅広い方々をキャンパスに招待し、学生たちとともにミニワークショップを計画する。5) 特別研究教員制度: 優れた経験を持った外部の人材を有期で雇用できる特別研究教員制度を活用することにより、本拠点におけるポストドクや若手研究者たちの更なる育成を促進するとともに、拠点における研究者の人的資源を拡充する。</p>		

